

# 英文和訳を通じて日本語教育

国 広 哲 弥

今年 は 英語学 講読 の 時間 に George Yule の *Pragmatics* を 読ん で い る 。 そ の 第 3 章 は 次 の よう に 始 ま っ て い る 。

Throughout the preceding discussion of deixis, there was an assumption that the use of words to refer to people and things was a relatively straightforward matter.

指名した学生はこれを次のように訳した。「これまでの直示についての議論を通して、人や物を指す語の用法は比較的簡単なことであると想定してきた。」これは日本語としておかしい。「…の議論を通じて」でなければならない。そう言うと、学生は「なぜですか」と言う。最初ははっきりしなくても、指摘されれば「なるほどそうか」と分かるのが普通の反応であると思うけど、「なぜですか」と反問してくるところに日本語能力の問題がある。そこで教室では「とおして」と「つうじて」の意味の違いを説明することになるが、英語教室は日本語教室に変わるのである。「ハワイでは一年をつうじて気温が変わらない」とは言うが、「\*ハワイでは一年をとおして気温が変わらない」とは言えない。詳しいことは柴田武編『ことばの意味—辞書に書いてないこと 2』(平凡社)に書

いているのでそちらに譲るが、ある期間にわたって続く出来事や状態が問題になっているときは「つうじて」を用いる。「とおして」は単なる通過場所を指すときに用いる。上の英文はそれまで続いた議論を問題にしているのだから、「つうじて」でなければならない。この拙文の題に「つうじて」を用いているのも同じ理由による。

これはほんの一例であり、英語の教室ではこのような日本語の学習不足がしばしば障害となる。「この all は『あらゆる』であって、『すべての』ではない。」と説明してみたところで、こういう日本語の意味が分かっていなかったら何にもならない。「あらゆる」は開いた集合を表し、「すべての」は閉じた集合を表す。ある all の用法がどちらの意味であるかということまで考えるのが、的確な読みと言うものである。このような基本的な語の意味用法については、高校までの日本語教育で十分に訓練されていなければならない。高級な文学鑑賞ばかりやって、基本語の意味用法をないがしろにしているのは砂上の楼閣を築くことになろう。これは大学入試の問題の出し方が影響を及ぼしている面もあるので、十分な反省が必要であると思う。